



## メディアコントロールⅢ

教育長 津野 庄一郎

2月7日(土)、「令和7年度 荒川流域育成会議 交流会」が関川村で開催され、神林地区と荒川地区の青少年育成市民会議、関川村村民会議の皆さんが

参加しました(30名)。第1部の講演会では講師に、新潟市児童相談所こども相談課課長補佐の小野郁夫さんをお迎えし、「子どもを守るメディアとのかかわり方」について講話をいただきました。

講師は、新潟市の生徒指導をはじめとする豊富な現場経験をふまえ、急速に浸透するSNSの利用について、次のように述べています。

- SNSの利用は、「簡単に褒められる」「すぐに結果が出る」「努力が要らない」ことから何度もやりたくなる。その結果、タブレットやスマホ等に頼る生活となり、我慢しない、考えない人間を生むことにつながる。
- 教育は「快」の提供ではない。
- SNSは、「恐怖、怒り、共感」の感情に働き掛けようとするので、考えることを奪う。
- 勉強は、「考える脳の基礎体力」を育てる。
- 「SNS依存」と「ゲーム依存」の特徴をつかむこと。
- SNS依存は、他者とのつながりや社会的評価、他者評価で満たされる。
- ゲーム依存は、勝敗、競争意識、自己達成感で満たされる。
- ネットで近づいてくる人は特に注意する。(子どもの略取・誘拐・人身売買被害など犯罪被害に遭うのは16歳以上から急増)

国を超えてネットをめぐるトラブルやいじめ等の問題が深刻化しています。真偽の定まらない情報や誤情報が飛び交い、誹謗や中傷が絶えない中、何が正しい情報かを見極め、自分の頭で考えて適切に表現する力(情報リテラシーや情報モラル)がますます重要です。情報の荒波から子どもを守る。まずは「ネットで見たことを鵜呑みにしないこと」、「情報源を確かめること」、強い感情を覚えたら「少し時間を置くこと」、そして「寝室にはスマホ等のスクリーンを持ち込ませないこと」など、ご家庭でできるところから実践してほしいと思います。